こだま俳壇（一月通信句会）

白き地に晴の一文字初日記　木村武子
落款は朱の薔薇一つ賀状くる　三井光子
仲のよき夫婦に逢へり初詣　友井眞言
独り居の母に小分けの節料理　角田英昭
正月やどこへも行かず誰も来ず　中野みどり
賀状みてゆつくりお茶を飲み干しぬ　島田多嘉子
花を生け一気に気持ちは正月へ　小室豊子
初夢の誰もマスクをしておらず　松尾佐知子
明けの春朝湯のあとの一人酒　瀧澤正行
元旦の朝冴える月を一人じめ　後藤貞夫
神主の細き二の腕年用意　田中一男
正月は昔晴着今褞袍　井村友彦
羽子板のお飾り写す時の夢　白井保次郎
猿曳に引き回わされて夢醒めり　高橋和江
兄弟で父を語れば湯冷めせり　坂守
田舎より届きし餅は格別よ　常世田芳子
初釣やかすかに揺れる鯊の影　鳥海敏雄
手づくりの正月飾り眺め居り　中村桂子
初売りや農家の庭先のぼり立て　本山文子
お年玉今年も遊んでねと手紙添え　並木まり子
独楽回しなら子どもらに負けまいぞ　太田土男